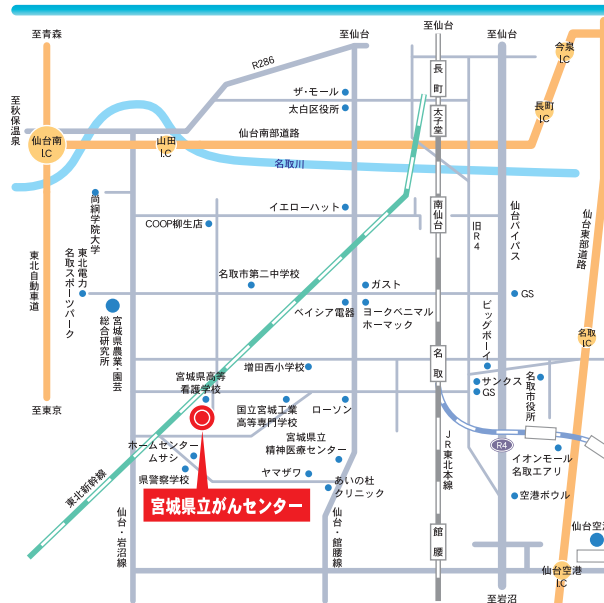


外来新患診療体制表 平成25年3月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科	新患	●	●	●	●	●
専門外来	肝臓		肝臓	上部消化管・胆膵	肝胆膵・下部消化管	上部消化管
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	化学療法科	●	●	●	●	●
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●	●	●	●	●
	外科	●	●	●	●	●
整形外科		●	●	●	●	●
脳神経外科		●	●	●	●	●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●	●	●	●
形成外科		●	●	●	●	●
婦人科		●	●	●	●	●
泌尿器科		●	●	●	●	●
放射線治療科		●	●	●	●	●
緩和医療科		●	●	●	●	●

*消化器科では、専門外来の診察日にも紹介患者さんの予約を受け付けております。お申し込みの際にご確認下さい。
診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL 022-384-3151(代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



交通案内

J 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
 桜 仙南交通
 南 交通
 交 交通
 通 交通
 自 交通
 家 交通
 用 交通
 車 交通

東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分
 ○TEL (022) 381-5152(直通)
 (022) 384-3151(代) 内線115
 ○FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
 電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

地域医療連携室だより

Vol.20

平成25年3月発行 地域医療連携室

宮城県立がんセンター



開かれた宮城県立がんセンターを目指して

医療局長・消化器外科 藤谷恒明



年度末となり人事や異動が気になる季節となりました。この地域医療連携室だよりが皆様のお手元に届く頃には、それぞれの職場で新しい部署に赴任される方のために多くの送別会や歓迎会が計画または開催されていることでしょう。

さて、私共の宮城県立がんセンターが所属しております地方独立行政法人宮城県立病院機構は、当院と循環器・呼吸器病センター（瀬峰町）、精神医療センター（名取市）の3病院で構成されております。私が担当しております医療局には医師のほか、栄養士、臨床工学技士、理学療法士など多職種のメディカルスタッフが所属しておりますので、この4月にはこれらのスタッフを対象に機構内での人事異動が行われていると思います。

医師の場合、機構内の異動は稀で、東北大学病院をはじめ機構外の施設から多数の有為な人材の供給を受けております。1993年に成人病センターを引き継ぐ形で開設されました当院は、小児を除く全てのがん治療を担う施設として再出発しました。それから20年、医療局に所属する医師は総勢73名を数え、それら専門医の質と量を見ますと、宮城県のがん医療を担うに相応しい陣容になっていると自負しております。また、今年には新型の放射線治療機器（トモセラピー）やPET-CTの導入、外来化学療法室の移転拡張が予定されております。それらが入る新棟が完成するこの秋には更にパワーアップした宮城県立がんセンターをお見せできるものと思っております。

当院内に設置しておりますご意見箱の中に「名称からがんの文字をなくしてほしい」とのご要望が時々寄せられます。これは「がんは不治の病である」という印象が強いためのもものと存じます。患者の皆様のご心配やご不安を少しでも和らげるために、恒例の県民公開講座や出前講座など職員が院外で県民の皆様と交流する機会を大切にして、最近のがん治療の成果をご説明していきたいと思っております。また、「がんセンターは少し敷居が高い」と話される医療者の方もおられます。当院のイメージが一朝一夕で変わることはないと思っておりますが、独立行政法人化を契機として院外の医療者の方々と交流する機会を増やすことにより、当院も少しずつ変わっていることを皆様感じて頂ければ幸いです。

最後に、充実したスタッフや最新鋭の設備を十二分に活用して頂くため、患者や医療者の皆様が開かれた宮城県立がんセンターを目指しますので今後ともご支援をお願いいたします。

消化器科



消化器科 科長 鈴木雅貴

消化器科の紹介をさせていただきます。消化器科は消化器領域の悪性疾患を中心にその診断と治療を行っております。近年、各臓器別疾患の分類は非常に細分化され、その診断法や治療法は各々の疾患ごとに高度に専門化してきております。このためそれに対処すべく当センターの消化器科の医師は肝、胆膵、上部消化管、下部消化管の4つのグループにわかれそれぞれの担当する分野の疾患において責任を持って専門的に非常に内容の濃い診療を行っております。同時に悪性疾患に限らず、良性疾患に関しましてもどんどん受け入れております。したがってどんな消化器疾患でも垣根なく迅速に対処させていただきますので、御紹介いただきます先生方には全く遠慮なさらずお気軽にご紹介くださいますようお願い申し上げます。御紹介いただく場合ですが毎日行っております新患外来は勿論、専門外来に直接ご紹介いただきましても結構でございます。ちなみに専門外来は、肝臓が月、火曜日（小野寺博義、鈴木真一）、胆膵が水曜日、木曜日（虻江誠、塚本啓祐）、上部消化管が水、金曜日（野口哲也、及川智之）、下部消化管が木曜日（内海潔、相澤宏樹）となっております。お電話一本でも結構ですので宜しくお願い申し上げます。また先生方と当科との地域連携を更に強化する目的で、昨年「消化器診療ネットワーク懇話会」と称する研究会を立ち上げました。当センターでは初めてとなる先生方との懇親を深める会であり、第1回目となる会をさる11月にメトロポリタンホテルにおいて開催させていただきました。Opening remark といまして片倉院長の挨拶及び新棟を含む当センターの未来像についての講演の後、先生方より御紹介いただきました症例につきましてそのご報告となる症例検討が各グループよりなされました。今後も、稀な症例の報告というのではなく先生方からご紹介いただきました患者様の治療報告という形式をとることにより少しでも先生方に還元できればと考えております。本会では仙台市及び仙台以南、相馬市までのまことに多数の先生方のご出席を賜りまして本当にありがとうございました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。第2回目の会は6月19日に開催予定でございます。近くなりましたらご案内させていただきますので宜しくお願い申し上げます。新棟も夏には完成し、当科といたしましても今後ますます発展の時と考えております。先生方にはこれまでご協力いただきまして誠に有難うございました。今後も引き続きご紹介くださいますようお願い申し上げます。



薬剤部

薬剤部 部長 鈴木幹子

宮城県立がんセンター薬剤部では薬の安全使用に貢献できるよう日々業務に取り組んでいます。当院では抗がん剤の使用量がかかなり多く、平成23年度の購入金額は全体の52.1%となっています。薬剤部では特に抗がん剤の安全使用には注意を払っており、これまでの薬歴と合わせて厳密に処方監査を行っています。また、抗がん剤の治験薬も数多く管理、調剤しており、薬剤師の治験コーディネーターを含めて治験業務に取り組んでいます。また、がん専門薬剤師の育成を目指して、より専門性を高めるための研鑽を積んでいます。

今回は抗がん剤安全使用に結びつくミキシング（混注）業務について紹介します。

抗がん剤などの無菌処理件数は23年度12,082件で月1,000件前後となっています。現在、薬剤部のクリーンルーム内に外部排気となっている安全キャビネットを2台置いて、平日は薬剤師4名体制、土、日、祝日は2名で行っています。まず投与前日に処方箋監査を実施し、内容に疑義があれば医師に照会後、注射薬を準備し、混注業務に備えて手順など記載しておきます。抗がん剤の用量は患者様毎に違うものであり、調製作業の準備は大切です。当日の作業にあたってはガウン、キャップ、マスクなどの装備をしてクリーンルームに入ります。抗がん剤は危険性がランク付けされていますが、アルキル化剤でも特に揮発性が高いものは吸引のリスクが大きいので、閉鎖式接続器具を使用して混注業務を行います。調製者とは別の薬剤師が監査するダブルチェック方式をとることで安全確認を行っています。



抗がん剤ミキシング



抗がん剤ミキシング



調剤監査

今後、新棟が完成すると外来化学療法ベッドが増えるため、抗がん剤混注業務は増加することが予想されます。薬剤師による混注業務は最後まで衛生的な環境で行えることと、安全に調製された薬を患者様に届けられるというメリットがあります。がん化学療法は日々進歩しています。常に最新情報を入手し、最大限に抗がん剤の効果を発揮できるよう貢献するため、この業務を推進することが必要です。



前列中央 鈴木薬剤部長